

貫北式

競技かるたに挑戦してみよう！

競技かるたとは、「小倉百人一首」を並べて、自陣と敵陣の札を取り合って勝敗を決める競技です。明治37年にルールが統一され、「全日本かるた協会」の結成とともに全国に広まってきました。貫井北分室で行われる百人一首かるた大会は対一の競技かるたではなく、源平合戦で競い合います。チームで行うのでかるたが初めての方でも楽しめます。

これが貫北式かるた大会のルールだ！

① チームごとに机につきまます。

* チームはくじで決まります。

② 札五十枚を自分の陣地（自陣）前に自由に並べます。

③ 読手が上の句を切らずに読み、そのあと下の句を読みます。

例、村雨の露もまだひぬまきの葉に
霧立ちのぼる 秋の夕暮れ

* 上の句↓村雨の

* 下の句↓霧立ちのぼる

④ 競技者は読まれた歌の下の句の札をいち早く取ります。

⑤ 敵陣の札を取ったら自陣の札を一枚送る事ができます。お手付きしたら、敵陣の札が一枚送られます。

⑥ 対戦方法はトーナメント式で各対戦時間は十五分です。対戦時間終了時に自陣の札が少ない方が勝ちになります。

（注意）

・貫北式では札は払わず、札を押さえて取ります。

・空札（取り札にない札）はありません。

以上をふまえて

いざ、かるた大会に挑戦だ！

競技かるた経験者の

YAサポーターが伝授する

かるた大会に勝つ3つのコツ

1、一枚札の決まり字を覚えるのだ！

・決まり字とは、上の句で「ここまで読むとその歌」とわかる部分の事。特に次の歌は上の句の一字目が一枚しかないので一枚札と言います。

- ㊦ らさめの→きりたちのぼる（87番） ㊧ みのえの→ゆめのかよいじ（18番）
 ㊨ ぐりあひて→くもがくれにし（57番） ㊩ くからに→むべやまかぜを（22番）
 ㊪ びしさに→いつこもおなじ（70番） ㊫ ととぎす→ただありあけの（81番）
 ㊬ をはやみ→われてもすゑに（77番） *一枚札はこの7枚しかないので、
 むすめふさほせ でしっかり覚えよう！

記憶力



判断力

2、札の並べ方を工夫せよ！

・札を早く取るには札の置く位置を覚えておくのもコツ。
 右利きの人は右の下段、左利きの人は左の下段に自分の得意札を置こう。

瞬発力

3、札の送り方を考えるべし！

・敵陣の札が取れた時、相手がお手付きをした時に送り札をします。送る札はあえて自分の得意札を送る事で、その札を確実に取ればさらに送り札ができて更なるポイントにつながるよ。

